

ブラジルレアル下落について

2012年5月18日

ブラジルレアルの対円為替相場は、2月末に47円台の高値をつけましたが、3月以降は下落を続け、5月に入ってから一時40円台を割り込む水準まで下落しています。

《3月以降ブラジルレアルの下落が続く》

2012年3月以降ブラジルレアルは下落を続け、5月に入って一時40円台を割り込むなど、2011年9月に欧州債務問題の悪影響で投資家のリスク回避姿勢がピークになっていた水準までレアル安になっています。

ブラジルレアル安となった背景としては、ブラジル中央銀行が、国内景気減速懸念などから、政策金利を3月には9.75%(対前月▲0.75%)、4月には9.0%(同▲0.75%)と2ヶ月連続で引き下げたことがあげられます。

加えて、5月以降のギリシャ総選挙、フランス大統領選挙の結果を受けて、欧州債務問題に対する懸念が再びクローズアップされ、投資家のリスク回避傾向が強まり、新興国通貨は、おおむね軟調に推移しています。

《今後の見通し》

●景気見通し

IMF(国際通貨基金)によると、ブラジル経済は、2012年には+3.0%、2013年には+4.1%まで回復すると予測されています。

昨年8月以降の累計3.5%の利下げ、経済対策、レアル安による企業の輸出競争力の回復等も景気を下支えしそうです。

2010年からみると成長率は鈍化しているものの、2014年のサッカーW杯、2016年のオリンピック開催のための国内インフラ投資などにより中長期的な成長力は維持されていると考えられます。

●為替見通し

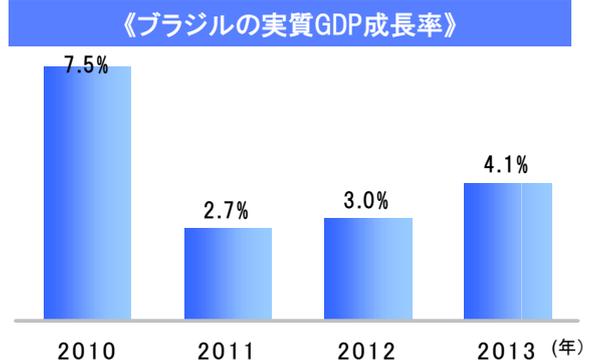
ブラジルの政策金利は、追加利下げ観測が浮上してきたことで、レアル安が続いています。

4月の物価上昇率は+5.1%とインフレターゲットの4.5%(±2.0%)の範囲内にありますが、現在の政策金利9.0%は、2008年のリーマンショック後の最低水準8.75%に接近していること、これまでの利下げによる景気回復効果が期待されることなどから、今後の政策金利の下げ余地は限定的と見られます。

また、節目とされる1ドル2.0レアル、1レアル40円近辺で推移していることから、軟調に推移しているブラジルレアルに割安感が出てくることも想定されます。

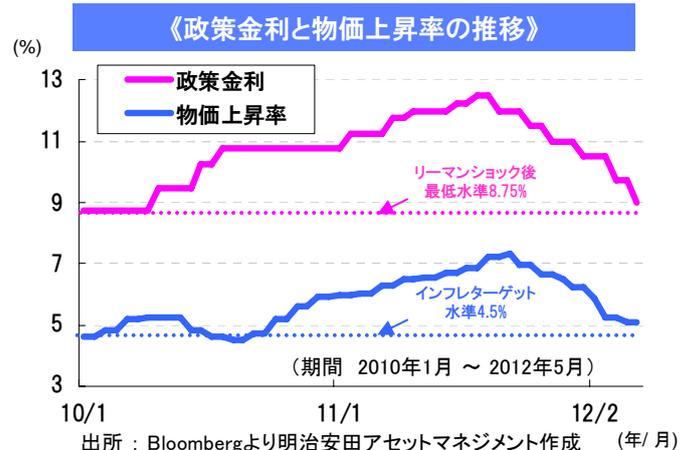


出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成



(期間 2010年～2013年 2012年、2013年は予測値)

出所：IMFデータより明治安田アセットマネジメント作成



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成 (年/月)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。